

【調査の目的】

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【調査の概要】

〇実施校数 〇実施児童生徒数

小学校：8校 小学校6年生：244人

中学校：2校 中学校3年生：248人

〇学力に関する調査 〇学習や生活の状況・学校の取組に関する調査

小学校：国語A・国語B・算数A・算数B 児童生徒アンケート

中学校：国語A・国語B・数学A・数学B 学校アンケート

※Aは、主として「知識」に関する問題、Bは、主として「活用」に関する問題

【調査結果の取扱い】

本調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのため、序列化や過度な競争を目的とした取扱いにつながらないよう強み、弱み等、数値を含まない記載となっております。

調査結果については、本調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要と考えます。

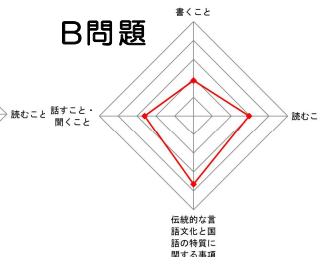
国語

〇小学校

A問題



B問題



【全体的な傾向と課題について】

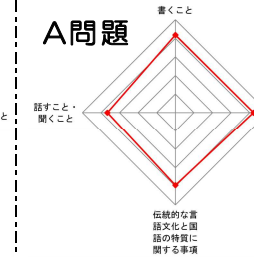
A問題については、4領域のバランスもよく基礎基本的な知識技能が身につけているといえる。しかし、B問題では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」以外の3領域が弱みであることが分かる。特に、「書くこと」の領域で、事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりする力の正答率が低いことが分かる。

★指導のポイント★

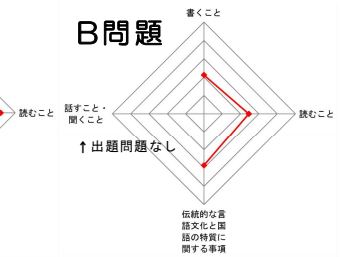
- ・文と文をつなぐ方法を考え、二文を一文にして書き直すこと
- ・「例えば」を使って、文と文の関係を整えること

〇中学校

A問題



B問題



【全体的な傾向と課題について】

A問題では、「話すこと・聞くこと」が、他の領域と比べると弱みであることが分かるが比較的4領域のバランスはとれている。B問題では出題された全ての領域が弱みであり、特に「書くこと」の領域で、伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちの根拠を明確にして書く力の正答率が低いことが分かる。

★指導のポイント★

- ・書いた文章を読み返し、目的に応じた表現に直すこと
- ・文の接続に注意し、伝えたい事柄を明確にして書くこと

学力調査の検証にかかる東員町の教育努力目標

【確かな学力】

〇小学校

- ・学んだこと（基礎基本）を生かしながら、仲間とともに新たな課題を乗り越える力を育みます。
- ・対話力、活用力を生かしながら、課題を克服できる力を育みます。

〇中学校

- ・目標に向かって、計画的・継続的に学習できる力を育みます。

【豊かな心】

〇小学校

- ・仲間とともに学び合うことに喜び感じられる心を育みます。
- ・困っている子に気づき、相手の立場に立ち、考えられる心を育みます。

〇中学校

- ・自分の将来や生き方について考えられる力を育みます。
- ・社会の発展に貢献しようとする心や力を育みます。

【健やかな体】

〇小学校

- ・規則正しい生活習慣と、進んで運動したり外遊びをしたりする習慣を身につけます。

〇中学校

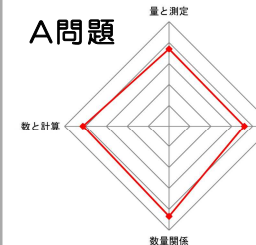
- ・規則正しい生活習慣を確立し、体力をつけようとする力を育みます。

(東員町16年一貫教育プランより)

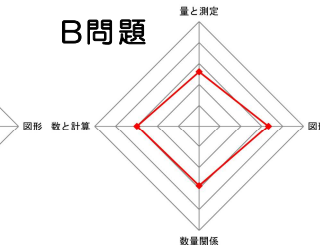
算数・数学

〇小学校

A問題



B問題



【全体的な傾向と課題について】

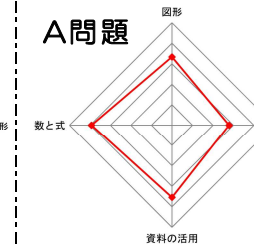
A問題では、「量と測定」「図形」の正答率が下がるが、概ね基礎基本的な知識技能が身につけているといえる。しかし、B問題は、グラフの四角形が小さく、全ての領域において活用する力が弱いことが分かる。具体的には、国語の書く力とも関連するが、示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を言葉と数を用いて記述することに課題があった。

★指導のポイント★

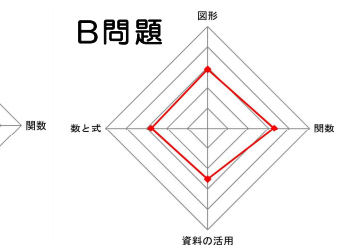
- ・事柄が成り立つかどうかを判断し、言葉や数、式、グラフ、図、表などの表現を関連づけて説明すること

〇中学校

A問題



B問題



【全体的な傾向と課題について】

A問題では、他の領域と比べると「関数」の正答率が低く、具体的には、与えられた表を基に2つの数量の関数関係を表現したり一次関数のグラフを選んだりすることにおいて課題があった。B問題では、全ての領域において正答率が低く、活用する力の弱さが課題である。

★指導のポイント★

- ・関数関係を見いだしたり、関数を判断したりすること
- ・不確定な事象の起こりやすさを判断し、その理由を説明すること

レーダーチャートの見方：各教科で学習指導要領に示されている領域の正答率をグラフ化したものです。それぞれの領域の正答率が高いほど、グラフの四角形はバランス良く大きくなる傾向にあります。